

伊賀地域以外の地域に お住まいのみなさんへ

「伊賀二筆」創刊兼終刊号は五年前、江戸川乱歩生誕百二十年を祝して平成二十六年に発行した。同七年以来の歴史を誇る地域雑誌「伊賀百筆」から暖簾分けを忝くし、一号限りの個人誌として世に送ったが、取り扱いはオンライン書店のアマゾンだけ、書店にはいつさい並べなかつたから、誌名に伊賀を掲げていながら伊賀地域の本屋さんでも入手はできなかった。もつともここ三重県伊賀地域は、伊賀市にせよ名張市にせよ、知性にはまるで無縁な土地柄である。たとえ店頭販売してみたところで猫に小判、犬に論語、豚に真珠、牛に経文で馬の耳には念仏と来るであろうことは容易に想像された。だが土地柄の問題はさて置き、江戸川乱歩と伊賀地域との関連について一度一冊にまとめておく必要があるのではないか。そう思い当たったので復刊兼再終刊号を出すことにした。売れる心配はないが、伊賀地域や結婚百年、名張市発足六十五年など記念すべきあれこれが重なり、慶祝すくめの一冊となった。

第一部には乱歩のデビュー作「二銭銅貨」を配した。伊賀地域のみなさんに乱歩作品繙読の機会をと考えての掲載だが、六字名号が馬の耳に念仏とならぬことを祈るばかりである。第二部には伊賀や名張をとりあげた乱歩の随筆をフイーチャーし、第三部では乱歩と伊賀地域、あるいは江戸期に津藩を治めた藤堂家とのゆかりを概観した。第四部は小学館の『江戸川乱歩電子全集』に収録されたインタビュアーその他、第五部では地域社会に巣食う退屈の虫を封ずるべく、諸羽流正眼崩し胡蝶の舞、ひとさし舞ってみた次第。第六部は名張市立図書館発行『江戸川乱歩著書目録』の増補である。伊賀地域以外の地域にお住まいのみなさんに興味関心を抱いていただける内容ではないが、なかには酔狂な読者もおありかと踏み、このたびはアマゾンではなく書肆盛林堂にネット販売をお願いした。本誌をお読みになつて伊賀地域に足を運んでみようかなと、うっかり思っていただければ編集兼発行人の幸甚これに過ぎるものはない。伊賀市長と名張市長になりかわつて謝意を表し、切にご来駕を冀う。——乱歩忌に。(中 相作)